すさみ町立エビとカニの水族館

海洋ジュニアレンジャー育成プログラム～小さな力が海を育む～

実施期間：平成27年９月１日（火）～平成28年６月30日（木）

【事業の内容・目的】

身近に海がありながら海と触れ合う事が少ない現代の子供たちや、海から遠く離れた地域に住む子供たちに海に関心を持たせ、本やネットその他からは決して得られない生きた海の知識を自分自身で学び、感じ取る事が出来る場を提供することをめざしています。様々な地域から参集する子供たちが海を学び、海から学ぶという共通の目的の元に連携し、交流する機会を作りました。特にすさみ町が所有するシーカヤックの有効活用や、新たに整備するスノーケリングセット等の使用方法の講習から始め、それらを実際に使用したフィールドワークまでを一貫して学んで、南紀地方の海岸線、及び磯と浅海域が生き物に対してどういう役割を担っているか、海を護ることがどんなに大切かということを子供たちに知ってもらいました。また、活動記録写真や漂着採取物等を一般に公開し、地域住民に向けた活動内容紹介と、地域の海の現状や課題、魅力を伝える場として海の環境学習室を新たに建設しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

活動の様子

１.ミッションNO.3　飼育員になって水族館の裏側を調査せよ.

【開催日時】平成２７年１２月２３日（水）１２：００～ １５：００
【開催場所】すさみ町立エビとカニの水族館
【参加者数】　６人＋保護者２人
【活動内容・目的】

●海に興味を持つきっかけとなったのが水族館という子供は少なくありません。特に普段は見ることができない水族館の裏側、バックヤードを見学したり、飼育員の仕事を体験することは、より一層好奇心がかきたてます。水族館スタッフが付き添い、朝礼→朝の見回り→残餌回収→水槽清掃→アザラシプール清掃→水温測定＆水質検査→調餌→アザラシ給餌→給餌→お客様への解説→午後の見回り→夕礼の順に交代で作業を行って、飼育員の日常を体験してもらいました。

水族館前で受付

飼育員の仕事の解説を受ける

予備水槽の飼育生物の観察

展示生物の観察と解説

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

アオウミガメにエサを与える

アザラシのトレーニングを体験

１回目、２回目が悪天候で中止になったため、初めてのミッションとなりました。参加者は少数でしたが、飼育員と一緒に館内の見回り、水温測定、水質検査、給餌、ウミガメやアザラシのプールの掃除、等を次々とこなしていきました。特にウミガメプール掃除の際、直接アオウミガメに触れたり、ゴマフアザラシのトレーニングに参加して大喜びでした。また、予備水槽に蓄養されているエビやカニの入手先を知って、エビとカニの水族館の運営が地元の海と密接な繋がりを持ち、且つ支えられていることが解ったようです。地元の海の環境を保つことが水族館の使命の１つであることを強調しました。

【参加者の声】

① 水族館で使う海水がこんなに長いパイプで運ばれているとは思わなかった。濾過をして大切に使う理由がわかった。
② 大きなアザラシも小さなエビやカニも同じ海で暮らしているなんてちょっと感動した。
③ アオウミガメがとてもよく人に慣れているのにびっくりした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

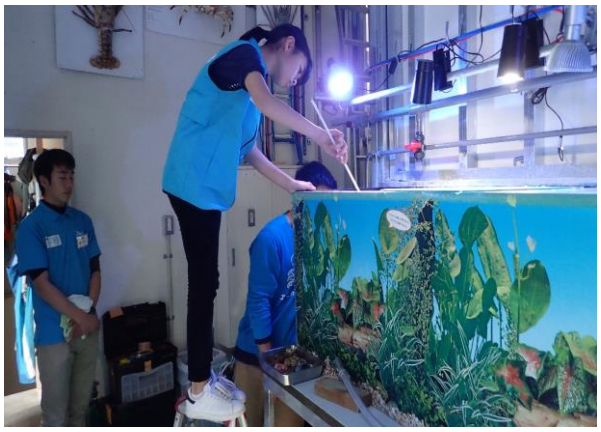
２．ミッションNO.3 Part2 飼育員になって水族館の裏側を調査せよ．

【開催日時】平成２８年３月１３日（日）１２：００ ～ １５：００
【開催場所】すさみ町立エビとカニの水族館
【参加者数】４人＋保護者２人
【活動内容・目的】

● 好評だった前回に引き続いての開催ですが、海に興味を持つきっかけとなったのが水族館という子供をさらに増やすために、普段は見ることができない水族館の裏側、バックヤードを見学したり、飼育員の仕事を体験させ、より一層好奇心がかきたてることを目指しました。前回同様水族館スタッフが付き添い、朝礼→朝の見回り→残餌回収→水槽清掃→アザラシプール清掃→水温測定＆水質検査→調餌→アザラシ給餌→給餌→お客様への解説→午後の見回り→夕礼の順に交代で作業を行って、飼育員の日常を体験してもらいました。

展示生物の解説に挑戦

水槽の裏から給餌を体験



給餌棒を使って餌を与える

アザラシのトレーニングを体験

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

デッキブラシでウミガメプールを掃除

餌料用プランクトン生物観察

前回のミッションが好評だったため、同様の Part2 を追加しました。飼育員と一緒に館内の見回り、水温測定、水質検査、給餌、ウミガメやアザラシのプールの掃除、等を次々とこなしていきました。特にウミガメプール掃除の際、直接アオウミガメに触れたり、ゴマフアザラシのトレーニングに参加して大喜びでした。また、予備水槽に蓄養されているエビやカニの入手先を知って、エビとカニの水族館の運営が地元の海と密接な繋がりを持ち、且つ支えられていることが解ったようです。

【参加者の声】

① 水族館の生き物たちを長生きさせるためには水槽の中であっても自然の海と同じ環境を作ってやることが大事だとわかった。
② ウミガメプールの掃除の時に初めてウミガメに触ったら、ヒレのようになった手足を動かす力がとても強かった。
③ アザラシのマックに餌をやる時、ちょっと怖かったが、水に潜る時鼻を閉じる様子が近くで見られた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

３．ミッションNO.４海岸パトロールで漂着物を調査せよ！

【開催日時】平成28年３月29日（火）12：00 ～ 15：00
【開催場所】江住海岸公園
【参加者数】６人＋保護者２人
【活動内容・目的】

●水ぬるむ春の海岸は生き物たちの宝庫。そして砂浜や磯には冬の波に打ち寄せられた様々な漂着物が打ち上げられています。海岸を歩き、磯を探り、活動を始めた生き物たちの暮らしを観察すると共に、ゴミを含む漂着物を拾って、どこから流れてきたのかを調べることで海流の存在や潮流を実感しました。

江住海岸公園の江須崎海岸で実施

海岸を歩きながら漂着物と生物を観察

漂着物を記録し仕分けをする

集めた漂着物はビニール袋へ

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

タイドプールの生物を観察

観察した生物を観察して記録する

海岸線を歩き、定められたブロックごとに現状を観察、記録すると共に、様々な漂着物を採集して分類した。特に珍しい外国からの漂着物は、その文字からどこから漂着したのか、どのように漂着したのかを推理しました。最終的には海岸マップや漂着物分類表等を子供たちの手で制作することで学習効果を上げることを意図していましたが、意外に漂着物が少なかったので叶いませんでした。海岸線の現状や漂着物を観察することから海の流れ、即ち海流や潮流を理解し、それに伴う海の汚れ等に目を向け、海岸や海を美しく保つ気持ちを育むきっかけは掴めたものと思われます。

【参加者の声】

① 韓国語や中国語で書かれたペットボトルを拾った。実際に韓国や中国で捨てられたのだろうか。
② もっとゴミが多いかと思っていたが、海岸は意外にきれいだった。
③ ナマコ（注：ニセクロナマコ）に初めてさわった。ふにょふにょしていた。

４．ミッションNO.5　シーカヤックで初夏の磯を調査せよ

【開催日時】平成 28 年４月 24 日（日）12：00 ～ 15：00
【開催場所】江住海岸公園
【参加者数】８人
【活動内容・目的】

●水ぬるむ晩春の海岸は生き物たちの宝庫。シーカヤックを使って磯の浅場に近づき、箱メガネで水中を観察するために、初心者にも安全なシーカヤックの基礎から漕ぎ方、転覆した時の対処の仕方等を学んだあと、救命胴衣をつけて２人１組で海に漕ぎ出しました。磯では交代で箱メガネを使って浅い海の中を覗き、魚や他の生き物たちの暮らしを観察しました。なお、沖合では監視ボートがレンジャーの安全を見守りました。

まずパドリングの練習から

しっかりと注意事項を確認する

いざ出発！海へ向かう参加者

慣れるまで海岸近くで練習

沖合には常に監視ボートが待機

慣れてきたら岩場に近づいて観察

親子で乗艇する子供も

最後に全員で記念撮影

すさみ町が所有する１人乗りのシーカヤック１艇と２人乗り６艇を借受け、その操艇技術を学び、習熟した後、通常のボートや漁船等では近づけない浅海域を中心に、シーカヤックならではの海面との近さを最大限に利用し、箱メガネを使用して海中を観察しました。その成果は生物マップの作成等で、エビとカニの水族館内で発表する予定でしたが、前日の荒天による海の濁りで観察は不調に終わりました。しかし、これがきっかけとなってシーカヤックのハードルが低くなり、海や海の生き物を観察する手軽な手段として利用しやすくなると共に、これまで見過ごされてきたエリアの観察で海に対する新たな感動が得られることが期待できました。

【参加者の声】

① 初めてシーカヤックに乗った。初めはフラフラしていたが、コツを覚えたら真っ直ぐ早く漕げるようになった。
② シーカヤックの上から箱メガネで海の中を覗く時、体重が片側にかかって傾くので難しかった。
③ 海が濁っていてよく見えなかった。

5．ミッションNO.6　スノーケリングで磯の生物を調査せよ.

【開催日時】平成 28 年５月 22 日（日）12：00 ～ 15：00
【開催場所】江住海岸公園
【参加者数】８人＋保護者６人
【活動内容・目的】

●磯を歩く観察会はよくありますが、ウエットスーツ（貸与）を着用し、スノーケリングで海面に浮かびながら海中を観察する機会はなかなかありません。水中メガネ、スノーケル、フィンの正しい使い方を学び、水族館飼育員の指導で磯や岩場、砂地を泳いでてそこに住む生き物を観察しました。安全確保のため、同行する飼育員の他に応援のダイビングスタッフ、沖合には監視船を待機させました。終了後はホテルベルヴェデーレの温泉入浴も。

江住海岸公園　江須崎海岸へ集合

まずは入念に準備体操

ウェットスーツに着替える参加者

マスクの付け方とスノーケルの説明

フィンは履いて移動する練習は難しい

スノーケルの使い方を練習

ライフジャケットを忘れずに

沖合に出て生物を観察する

海岸を歩く一般的な磯観察では見ることができない磯周辺の浅海域や、箱メガネではカバーしきれない場所の海底地形や海の生き物を観察するための手段としてスノーケリングの基本的な技術と安全対策を習得し、生き物にはむやみに手を触れない、フィンで付着生物等を傷つけないなど観察のマナーを学んだあと、区割りした磯マップに基づいて観察しました。結果は直ちに後で野帳に記入します。スノーケリングのハードルが低くなり、ライフジャケットを併用することによって、海や海の生き物を安全に観察する手軽な手段として認知され、以後、日常的に海を観察するのに利用できることを知ってもらいました。

【参加者の声】

① スノーケルやフィンは使ったことがあるが初めてウエットスーツを着た。何もしないで浮かんでいることが出来て安心だった。
② 潮がよく引いていたが、満ち始めると少し濁ってきた。
③ 遊びと観察では見る目が違う気がした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

海の学びミュージアムサポート事業の助成により、エビとカニの水族館がリーダーシップをとって、子供たちが持っている海のイメージを覆すことなく、海が見せてくれる様々な現象や豊かさ、人とのかかわりを認識させ、さらなる興味を啓発すると共に、子供たちにまず海に対して関心や興味を持たせることを何よりも優先させ、海が日常的な学びの場であることを周知徹底させることができた。特に本事業をシーカヤックやスノーケリング等の体験的な手段でなければ知る事の出来ない地域の魅力を発見する機会とし、海洋生物を通じた海そのものへの興味喚起や親しみの心を育み、事業終了後も継続して地域の海に関わり、守って行く予定だ。また、各活動成果を、参加者が体験した地域の海の魅力や現状、課題という視点から、子供目線でまとめたエビとカニの水族館内で一般向けに展示発表することによって、資料や活動記録写真の展示は、地域住民にとって故郷の海の再発見に繋がるものと思われる。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．和歌山南漁業協同組合	海水面の立ち入り、使用、監視船の提供
2．ホテルベルヴェデーレ	活動終了後の入浴提供
3．すさみ町	シーカヤックの無料貸出
4．和歌山県立自然博物館	資料提供

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．エビとカニの水族館HP	募集、活動結果を随時掲載
2．平成28年度年次報告書	平成28年末発行予定
3．紀伊民報	8回
4．毎日新聞	1回

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。